

奈良の「酒」と「創作落語」、技の競演を楽しむ

会員番号 # 3475 藤林敏男

連休初日の4月27日、前々から誘われていた蔵元:今西清兵衛商店が開催している「春鹿寄席」に行ってきました。場所は奈良町にある今西家書院(注1)です。重要文化財ですが、予約することで食事も可能です。この中にある書院(上段の間)に高座を設け若手落語家3名による古典と創作落語計4席たっぷり2時間聞くことができました。50人ほどしか入ることのできない狭い書院のため、噺家の表情は勿論、息遣い使いまで伝わる迫力ある話を堪能しました。

会場で常連の社友会員にも会い、2次会も盛り上がり21時過ぎに帰宅。次回は6月29日とのことでした。参考までに後にチラシを載せてありますので興味のある方は申し込んでみてください。

(注)今西家書院とは(Webより引用)

今西家書院は永く興福寺大乘院家の坊官を努められた福智院氏の居宅を大正十三年に今西家が譲り受けました。一説には大乘院の御殿を賜わり移建したとも伝えられています。昭和十二年八月二十五日、京都の二条陣屋、大阪の吉村邸と共に民間所有の建造物として初めて国宝の指定を受けました。

江戸時代に一部改造が行われていると理由で戦後、重要文化財となりましたが、銀閣寺の東求堂と同じく室町中期の書院造りの最も古い遺構を残しているといわれています。昭和十三年には柱全部に根継ぎを施し、北側庇及び屋根の葺替えが行われました。昭和五十三年九月から五十五年四月まで大規模な解体修理を行い、現在に至っています。

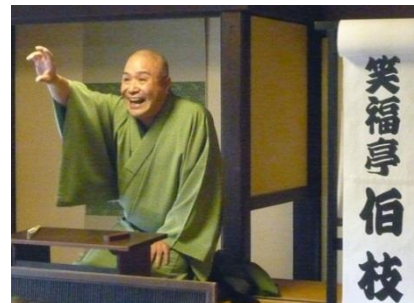
書院造りは上段・中段・下段と部屋に段差が設けられ、柱の面取りが室町時代の特色をあらわしています。



ここに高座が設けられた



生寿さんは奈良出身です



伯枝さんの声は響迫力!



いつも出ている純瓶さんは古典と創作の2席



高座を終えた落語家を交え交流会開始



今日の肴

(写真は会場であつた社友会の渡辺さんと、今西社長からの提供です)